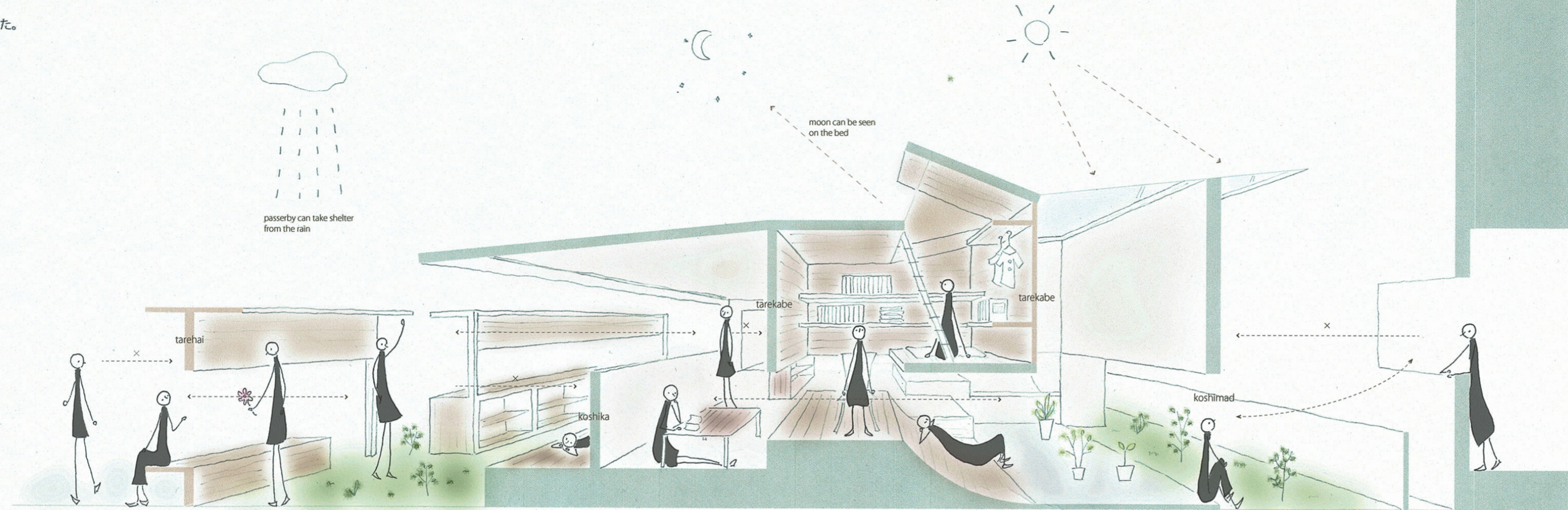


sit on the floor, or sit on the chair.

日本は元来、床坐で生活していました。
 明治以降、欧米の椅子坐の普及に努めました。
 戦後、床坐と椅子坐の混在した生活を確立しました。
 と同時に、LDKの住宅形式が誕生しました。

これは、戦後のことでした。



□垂堀 …まちとの呼吸

まちには二種類の他者がいる。一つは通りすがりの人、積極的に関係をもつ必要のない「他人」。もう一つはご近所さんなどの積極的に関係性をもつべき「他者」。
 垂堀は立位の状態で見え、座位の状態で見え。道を通り過ぎるだけの他人からはプライバシーを保つ壁となるが、ご近所さんとは互いに下からその気配を常に感じさせ、座ればそのままコミュニケーションが生まれる緩やかな境界となる。
 堀の下のベンチはご近所さんのたまり場となり、時には散歩中の知らないおじいちゃんまで座っている。他人が他者になるかもしれない。

□腰壁 …外部との呼吸

庭との境界はガラス戸で、そこからセットバックさせて腰壁を設ける。腰壁の手前は庭と直接つながる大きな縁側のような空間となり、奥は上のみが庭とつながるプライベートな空間となる。
 腰壁は床座の状態で見え、立位の状態で見え。腰壁の奥の空間は、床座で過ごせば庭から身を隠してプライベートな空間となり、椅子で過ごせば庭にいる人とコミュニケーションをとることができる。
 家の中は外と緩やかにつながり、家族団らんと他者とのコミュニケーションを両立する。

□垂壁 …家族間での呼吸

垂壁に囲まれた空間が個の空間となる。中では椅子やベッドの上では閉じた空間として一人の時間を過ごせ、床に座れば周りの共有空間とつながる。
 家の中では、常に家族が家の中のどこにいるか、気配を感じることが出来る。床座で過ごせば家は大きなワンルーム空間となり、椅子で過ごせば閉じた一人の時間を過ごすことが出来る。

□腰窓 …お隣さんとの呼吸

隣の家との境界の開口部をセットバックさせ坪庭をつくり、腰窓をあける。普通、住宅の隣家に面した開口部は、互いの視線を気にしてカーテンを閉めっぱなしにして閉じきってしまうことが多い。腰窓にすることで、家の中では坪庭だけが目に入り、窓際に座ればお隣さんとのコミュニケーションがとれる。

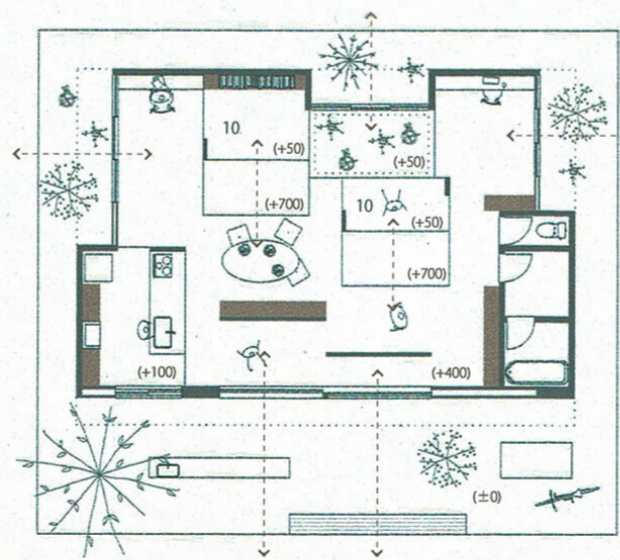


site:
 埼玉県さいたま市見沼区
 どこにでもあるような一般的な住宅地の一般的な規模の敷地を選定した。
 北面以外の三面は住宅と面する。駅や小学校が近く前面道路はよく人が往来する。

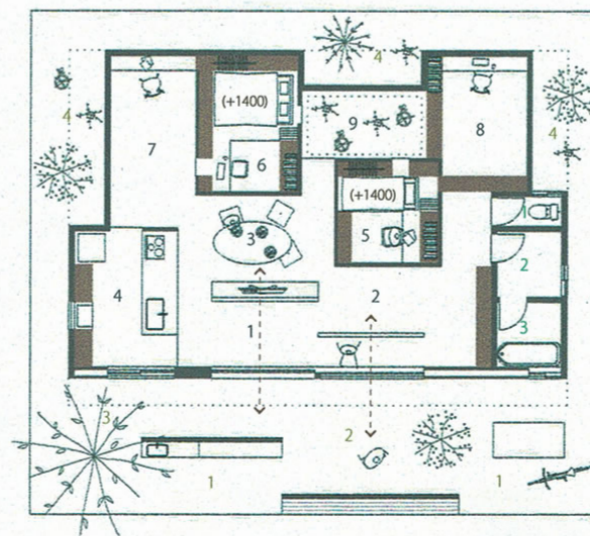
Plan scale: 1/150

1. extend - garden
2. invite - garden
3. idobata - garden
4. otonari - garden
1. public - area
2. neutral - area
3. family - area
4. cooking - area
5. sleeping - area (child)
6. sleeping - area (parents)
7. napping - area
8. study - area
9. sun - area
10. cave - area

1. rest - room
2. wash - room
3. bath - room



under GL+1400



over GL+1400

家の中に部屋 (room) はトイレや風呂の水回りのみしかなく、腰壁・垂壁によって様々な性格の領域 (area) に分けられる。家族の共有空間はリビングやダイニングといった区分ではなくパブリックとプライベートのグラデーションによって緩やかに区分され、最もプライベートな個の空間へとつながる。

垂堀は、ずれて配置され、道の手前がベンチ、奥が水道と棚の機能をもつ。そのずれは他者を誘い込み、自己を開放する。庭が道になると同時に、道は庭に拡張される。

